

平成 27 年度「英語能力判定テスト」における 今宮中学校の結果の概要と今後の取組について

大阪市では、生徒の英語力の充実と向上を図るため、教育振興基本計画*に基づき、英語イノベーション事業*の一環として、「英語能力判定テスト」を実施いたしました。このテストの目的は、生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、学校における英語の指導の改善を図ることにあります。

学習指導要領における中学校英語の目標は、4 技能（「読む」「聞く」「話す」「書く」）を総合的に活用できるコミュニケーション能力の育成と示されております。本テストで測定できるのは英語力の一部ですが、本校では、結果をふまえ、生徒の総合的な英語力向上を目指してまいります。

- 1 目 的 (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の改善、工夫に役立てる。

2 対 象 大阪市立全中学校 生徒 1 ～ 3 年生

3 実 施 日 ・ 3 年 生 平成 27 年 11 月 6 日（金）
・ 2 年 生 平成 28 年 2 月 5 日（金）
・ 1 年 生 平成 28 年 2 月 5 日（金）

4 内 容

学年	テストの種類	テストの難易度	テスト内容		満点 スコア
			筆記問題	リスニング問題	
3 年	テストD	英検 3 ～ 5 級レベル	50 題	30 題	460 点
2 年	テストE	英検 4 ～ 5 級レベル	40 題	25 題	400 点
1 年	テストF	英検 5 級レベル	25 題	25 題	340 点

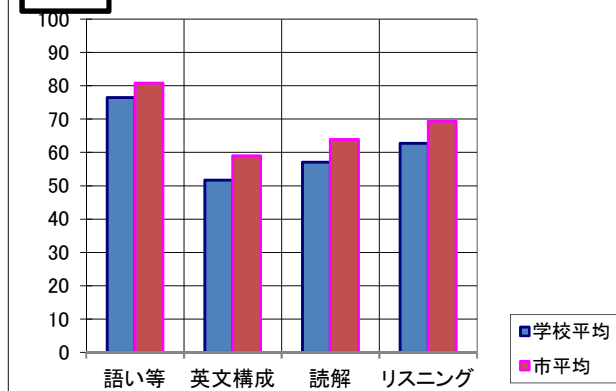
* 教育振興基本計画…本市の教育振興のための施策に関する基本的な計画

* 英語イノベーション事業…本市の英語教育強化を図るための事業

平成27年度「英語能力判定テスト」結果の概要と今後の取組 今宮中学校

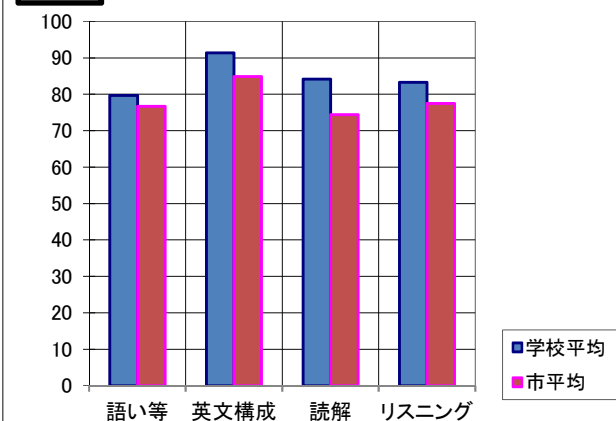
3年	語い等	英文構成	読解	リスニング
学校平均	76.5	51.7	57.1	62.7
市平均	80.8	59.0	63.9	69.4

3年



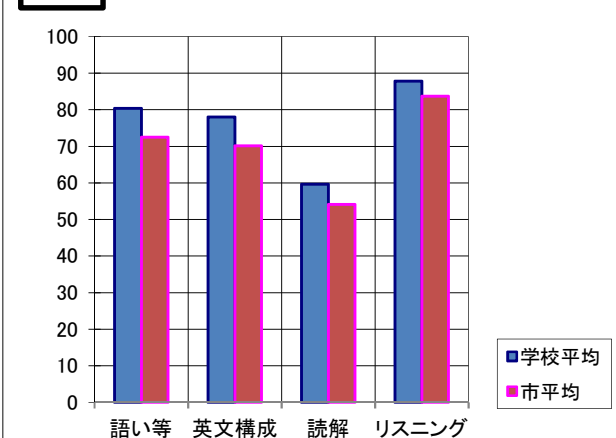
2年	語い等	英文構成	読解	リスニング
学校平均	79.7	91.4	84.2	83.3
市平均	76.7	84.9	74.4	77.5

2年



1年	語い等	英文構成	読解	リスニング
学校平均	80.4	78	59.6	87.8
市平均	72.5	70.1	54.1	83.7

1年



結果の概要と結果をふまえた今後の取組

※各学年において実施したテストはそれぞれ種類が異なるため、学年間の正答率を比較することはできません。

3年

英検3～5級レベル:スコア 0～460点

《結果の概要》

語い等以外では、全市と比べておよそ7ポイント低い結果となっているが、過去三年で比較した場合、徐々に向上してきている。

得点分布で全市と比較した場合、高得点層が少なく、低得点層が若干多い。

《結果をふまえた今後の取組》

低得点層に対する取り組みを強化し、苦手意識を克服させる必要がある。学校全体として、英文構成の力を中心に読解、リスニングにも力を入れる必要がある。

2年

英検4～5級レベル:スコア 0～400点

《結果の概要》

全市平均と比べても遜色のない結果が出ている。特に読解については、全市平均より10ポイント近く高い。得点分布で見ても、低得点層が少ないのが見て取れる。

《結果をふまえた今後の取組》

分野別のバランスから考えた場合、語い等並びにリスニングの力を更に上げることが必要であると考えられる。

1年

英検5級レベル:スコア 0～340点

《結果の概要》

全市平均より高い結果を得たが、読解、リスニング等に伸びしろがあるように思われる。得点分布で見たとき、現状で英語が苦手な生徒が若干名いるのが、今後ののびを考えたとき心配である。

《結果をふまえた今後の取組》

現段階で英語が苦手な生徒のフォローが重要であると考え。同時に読解、リスニング等について更に磨きをかける必要がある。